

教育学部

大学で自己実現の  
アフォーダンスを探れ  
教育学部長 利島 保

教育学部の新入生の皆さん、入学おめでとう。こうは言ってみたものの、ここ十年くらいこの言葉が空しく感じるようになったのは、私が大学教師の齢を重ねただけではないように思える。学部長たるものが、早々からこのようなことを言うのは、不謹慎の非りをまぬがれないかもしれない。

しかし、センターテストが大学へのイニシエーションと化した今、下向きになったとはいえ、経済的に豊かな環境の中で、自分の意の赴くままに生きることを良しとした教育を受けた自分の成長史に、何らの疑問を感じない新入生が多くなったことは確かと思う。

幸せが空気や水のような存在と感ずる現代生活で、何らの感動もなく生きてきた人が、自分の力で自己実現を図ることの難しさを大生活で味わったとき、自己拡散とアパシーへの陥落を加速することも事実である。この呪縛的な青年期の公理から逃れる手立てに、妙案はないとも言われている。

唯一これを払拭するには、自分だけの世界に閉じこもることなく、他との交わりを、大学という場で実践すること以外にないように思う。ここで言う他との交わりとは、享樂的に同輩と無為の時を過ごすことではない。

大学という生活ステージには、人類が長年



にわたって蓄積した有形無形の知恵、それらを誘う教師や事務官、そして、その両者を共有する学生、という大学生に用意された「アフォーダンス」がある。「アフォーダンス」とは、アメリカの生態学的心理学者のギブソン教授の造語で、特定の種が自己の環境適応に必要な、その種固有の環境手掛かりである。生活体はアフォーダンスに導かれて、生態学的に妥当な生活を可能にする、とギブソン教授は説いている。

このことを私流に解釈すると、大学生の自己拡散やアパシーは、大学でのアフォーダンスの喪失にその一因があると思う。ただし、大学に存在するアフォーダンスが、他のそれと異なる性質を持つのは、自己発見を通してのみ得られる点にある。

そこで、それぞれの思いを胸に本学部に入学された皆さんに、大学にあるアフォーダンスを見つけて自己努力と覚悟ができていますかを私は聞きたい。そして、この教育学部というあなたの人生のステージに存在するアフォーダンスが探せたとき、私は心から一人ひとりに「おめでとう」を言いたい。

(としま・たもつ)

良き友を作ろう

教育学部学生 神保 渡

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。苦しい受験を乗り越え、これから始まる大学生活に、少し不安を抱えつつ、や大きな期待をもっているでしょう。やりたい勉強、やりたい活動、興味のあることがたくさんあると思いますが、大学はその期待に応えられる場所だと思います。しかし、それはすべて、皆さん自身の積極的なアプローチがなければ何も機能しません。興味があるのに調べようとしないかったり、やりたいことに対して自分から動くこととしないれば、何も始まらないのです。

大学生活は、長いようで短く、あつと言う間に過ぎ去ってしまいます。大学生生活を有意義なものにするためにも、失敗を恐れず何事にも積極的に取り組み、大学という場を積極的に生かして、本当にやりたいことや自分らしさを見つけて下さい。

そしてもう一つ、私が皆さんに言っておきたいことがあります。それは「良き友を作ろう」ということです。友と言っても、それは先輩であったり、先生であったり、恋人であったりするかもしれない。そういった枠を超えて、本当に心を通わし一生付き合っていける人をたくさん見つけて欲しいの



テニス大会(本人左側)

です。私は、大学は勉強やサークル活動をするところというほかに、素晴らしい出会いの場だと思っています。実際に皆さんの貴重な出会いを体験してきました。そしてそれは、これからの私の人生にとって貴重な財産になるでしょう。皆さんも大学生活で、そういった良き友との出会いを求めて、たくさんの人と話したり、オリエンテーションキャンプに参加したりして下さい。大学には、いろんなところからいろんな考えをもった人が集まって来ます。きっとそこには素晴らしい出会いが待っているでしょう。四年間の大学生生活を終えた時、素晴らしい四年間だったと思えるように頑張ってください。

(じんぼ・わたる)